

令和 5 年度第 2 回東近江市総合教育会議 会議録

日 時 令和 6 年 1 月 29 日（月） 午前 10 時 開会

場 所 東近江市発達支援センター、八日市北小学校

出席者

|                              |           |                       |           |
|------------------------------|-----------|-----------------------|-----------|
| 市長                           | 小 椋 正 清   | 副市長                   | 久 田 哲 哉   |
| 教育長                          | 藤 田 善 久   | 教育長職務代理者              | 山 本 一 博   |
| 教育委員                         | 篠 原 玲 子   | 教育委員                  | 青 地 弘 子   |
| 教育委員                         | 沖 田 行 司   | 教育部長                  | 沢 田 美 亮   |
| 教育部次長                        | 中 西 美 智 代 | 管理監(学校教育担当)           | 栗 田 一 路   |
| 秘書課長                         | 伊 庭 善 一   | 発達支援センター館長            | 外 村 美 代 子 |
| 発達支援センター主幹                   | 河 居 生 恵   | 発達支援センター主査            | 今 村 香 代 乃 |
| 発達支援センター心理判定員                | 森 居 信 子   | 八日市北小学校長              | 武 久 雅 則   |
| 八日市北小学校教頭                    | 木 村 真 也   | 八日市北小学校特別支援教育コーディネーター | 浅 岡 み か 子 |
| 学校教育課特別支援教育コーディネーター<br>(事務局) | 井 上 照 美   |                       |           |
| 教育総務課長                       | 池 元 貴 之   | 教育総務課長補佐              | 小 辰 あ つ 子 |
|                              |           |                       | 以上 21 名   |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育部長 | 開会                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|      | 皆様、おはようございます。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|      | 本日は、大変お忙しい中、令和 5 年度第 2 回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。                                                                                                                                                                                                                                           |
|      | ただ今から、会議を始めさせていただきます。                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 市長   | 本日、司会を務めさせていただきます教育部長の沢田です。よろしくお願いいたします。                                                                                                                                                                                                                                                     |
|      | 開会に当たりまして、はじめに小椋市長から御挨拶をいただきます。                                                                                                                                                                                                                                                              |
|      | 小椋市長よろしくお願いいたします。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|      | 皆さんおはようございます。今年度、第 2 回目の総合教育会議ということで、教育委員の皆様もお揃いいただきありがとうございます。                                                                                                                                                                                                                              |
|      | 大変な年明けになりましたが、能登半島地震により、既に 236 名の御遺体が確認されたということで、心から御冥福をお祈りしますとともに、一日も早い復興をお祈りします。                                                                                                                                                                                                           |
|      | 東近江市では、二次避難の方々のために市営住宅が利用できるよう準備しています。既に 3 組の方が、東近江市に個人的に家族で避難をされていると確認しております。まだ、これから増えてくると思いますが、温かく迎えたいと思っています。また、被害家屋の危険度の判定や被災状況を認定し、罹災証明書を発行するために、東近江市も職員の派遣を断続的に行っています。総務省の割り振りで、滋賀県は、能登町を中心に支援をするということで、今後相当長い支援になるだろうと思っています。また、皆さん方の御支援をお願いします。我々も募金活動を始め、いろいろなところへ呼び掛けていきたいと思っています。 |

市長

地震の翌日に起きました日本航空と自衛隊の事故ですが、一瞬の判断を間違っていれば何百人という犠牲者が出るところを客室乗務員の判断で命が助かりました。昭和 60 年、日本航空 123 便が御巢鷹山に墜落し、520 人が死亡されたという事故がありました。あれから、日本航空は徹底した訓練と新入社員に御巢鷹山登山道の整備、頂上付近の清掃作業を必ず行わせているそうです。これは、教育も一緒であり、基本がいかに大事かを示してくれているのではないかと考えています。我々も毎年防災訓練を行っています。毎年、同じことを行うことにいかに意義があるかということを皆さんに認識していただきたいです。基本ができてこそその現場での応用問題です。それを子供たちにしっかり教えていただきたいという思いです。日本航空の客室乗務員は、機長との交信が途絶えると、自身で「今、扉を開けないといけない。」と判断をしました。この判断こそが、日本航空の基礎訓練の賜物だと思っています。イギリスのBBC放送では、「奇跡の脱出」と報道していましたが、奇跡ではなく訓練の成果だと思います。

そう考えますと、学校教育、基礎教育、義務教育というのはいかに大切かということです。

今回は発達支援センターで開催させていただきました。私の中で、子供たちに関する心配事のひとつですが、予備軍を入れると子供たちの 11 から 12 パーセントが発達障害があるという認識を持っています。放置していたら大変なことになるという思いがあり、ぜひ教育委員の皆様に見学していただき、御意見を伺い、少しでも特別支援教育に役に立つような時間になればと思います。発達支援センターと後ほど八日市北小学校の現場を見学していただきます。

今年度の総合教育会議ですが、1 回目は 7 月 5 日に開催し、児童生徒成長支援室で不登校児童生徒についてのテーマでした。東近江市の不登校対策はトップを走っていると私は自負しております。さらに来年度も不登校対策に力を入れていきたいと考えております。

限られた時間ではございますが教育委員の皆さん、本日はよろしくお願いします。

教育部長

ありがとうございました。

続きまして、藤田教育長から御挨拶をいただきます。

教育長よろしくお願いします。

教育長

おはようございます。今回のテーマは特別支援教育ということで、来年度東近江市教育委員会の主要課題として、不登校対応を掲げておりますが、不登校対応と同等に取り組みたいと考えているのが特別支援教育です。10 日ほど前の新聞に三日月知事が、県南部に特別支援学校の新設について表明されたという記事が掲載されました。県南部には草津養護学校と野洲養護学校が設置されていますが、いずれも在籍児童生徒数が 400 人前後、県内の他の養護学校と比較しても 2 倍近い在籍者数となっています。県南部の養護学校の新設については、県内の教育長会議において、何度も要望をしています。新設の養護学校は知的障害と肢体に障害のある子供たちを対象とされており、少子化の時代であっても、県南部では子供たちの人数は増加傾向にあり、養護学校進学を希望する対象児童生徒数は増加の一途をたどっています。県教育委員会では、それぞれの枠において増築を繰り返しながら対応してきていましたが、個々の障害に応じた適切な対応を行うに当たっては限界であると判断し、新設することを決断されたということです。県全体の教育環境を考えたときに、特に特別支援の充実につながるとして大変嬉しく思っています。

教育長

知事が、「待ったなし」の状況にあるとコメントをされましたが、「待ったなし」の状況にしたのは県教育委員会ではないのかと思います。しかしながら、私としては、地域の学校で学ぶ子供たちに対して、通級指導教室や特別支援学級の増設など、より一層の拡充をお願いしたいと考えています。

また、後ほど説明しますが、特別な支援を必要とする子供たちが、地域の学校で学ぶことが増えています。基本的には、その子供たちは、特別支援学級で学ぶのですが、教科によっては通常学級で学ぶことになっています。また、通常学級の中にも支援を必要とする子供たちが多く在籍するようになってきており、多くの支援員を配置しながら、それぞれ子供たちに配慮した学級運営を行っています。

不登校の子供たちの進路指導を考えたときに思ったのですが、中学校卒業後の情報が完全に抜け落ちているような気がします。「誰一人取り残さない」や「切れ目のない支援」をキャッチコピーに文部科学省や子ども家庭庁をはじめ、様々な機関が子供たちの育成に取り組んでいます。ここでも縦割りの弊害が現れているような気がします。目の前にある課題については一生懸命に取り組んでいるのですが、社会人として生き抜くまでの議論がされず、課題を先送りしているだけではないかと思っています。

今日は発達支援センターと学校教育の取組、また、就学前の教育保育の施設とのつながりを御覧いただこうと考えております。本日の総合教育会議はタイトなスケジュールになっており申し訳ありませんが、忌憚のない意見をいただきながら、より充実した支援体制の構築を進めていきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

教育部長

ありがとうございました。

本日の出席者はお手元の座席表のとおりでございます。

なお、本日は助言者として久田副市長に御出席していただいております。

続きまして、本日の資料について確認させていただきます。

教育総務課長

(資料確認)

教育部長

それでは、協議事項に入らせていただきます。

総合教育会議要綱第4条の規定により、「市長が総合教育会議の議長となる。」となっておりますが、「進行は、議長が指名した者が務めるものとする。」となっておりますので、私が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の総合教育会議は、「発達支援センターの取組について」、「特別支援学級について」を議題にしております。前半に発達支援センター関係職員から各種取組についての説明をさせていただき、その後、館内の見学も予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

後半につきましては、八日市北小学校に移動していただき、特別支援教室の見学と現在の状況等について校長先生から説明をしていただきます。

限られた時間ではありますが、スムーズに会議が進行できますよう、皆様の御協力をお願いいたします。

では、次第に従い進めさせていただきます。

まず、話題提供と館内見学について、発達支援センターの外村館長から説明をお願いします。

|               |                                                                                                                                                                                            |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発達支援センター館長    | (話題提供等)                                                                                                                                                                                    |
|               | 【館内見学】                                                                                                                                                                                     |
| 教育部長          | それでは続きまして、資料の説明を発達支援センターの河居主幹、今村主査にからお願いします。                                                                                                                                               |
| 発達支援センター主幹、主査 | (説明)                                                                                                                                                                                       |
| 教育部長          | 話題提供と館内見学、資料の説明につきまして、御意見、御質問等があればよろしくお願いします。                                                                                                                                              |
| 沖田委員          | 発達障害の子供の人数が増えているということですが、絶対数が増えているのでしょうか。それとも、このような指導体制が完備されたために増えているということなののでしょうか。                                                                                                        |
| 発達支援センター館長    | ここ数年、発達検査の精度が上がっています。東近江市の場合は、生まれてすぐは保健センターが関わります。また、最近は保護者が早く仕事に復帰されることもあり、子供の発達状況について保護者が気づきにくくなっているため、幼稚園等から相談をされます。相談されたときに、発達支援センターの心理士が必要に応じた発達検査をし、発達に課題のある子供については早期から支援の体制を整えています。 |
| 沖田委員          | 相談や検査等の体制が完備しているので、そういう子供が増えてきているということですね。                                                                                                                                                 |
| 教育部長          | よろしいでしょうか、ありがとうございます。他にございませんでしょうか。                                                                                                                                                        |
| 篠原委員          | 発達障害というのは脳の機能障害ということですが、診断されて療育手帳等をもらえるのですか。                                                                                                                                               |
| 発達支援センター館長    | 中には、医療相談から医療受診という形になり、それから養育手帳を持たれる方もおられますが、ここに来ている子供が100パーセント医療受診をしているわけではありません。必要に応じて医療受診をし、その後、養育手帳を取得される形になります。全員ではありません。                                                              |
| 篠原委員          | 受ける、受けないは保護者の意向ですか。受けると福祉のいろいろなサービスも受けられますが、受けたくないという保護者さんも多いということですか。                                                                                                                     |

発達支援センター館長

中にはおられます。

篠原委員

もう一点、学習障害というのは発達障害の中に入りますか。

発達支援センター館長

学習障害も発達障害の中に入ります。

教育部長

ありがとうございます。まだ御質問があるかと思いますが、この後、八日市北小学校でも御質問の時間を取らせていただきますので、何かありましたら、その際に御質問、御意見等をお願いします。

それでは、これから八日市北小学校に移動していただきます。

【八日市北小学校へ移動】

教育部長

それでは、まずは見学になりますので武久校長、案内と説明をよろしくお願いします。

八日市北小学校校長

(特別支援学級見学、説明)

【ミーティングルームへ移動】

教育部長

それでは、改めまして特別支援学級について八日市北小学校武久校長に説明をしていただきます。

八日市北小学校校長

(説明)

教育部長

ただ今の説明内容につきまして、御意見、御質問があればよろしくお願いします。

また、発達支援センターの取組について、御意見、御質問があれば合わせてよろしくお願いします。

青地委員

話を聞かせていただいて、教員が特別支援教育についての共通理解をするために、特別支援学級、通常学級の担任をそれぞれ経験するという事は、素晴らしい取組だと思います。ただひとつだけ気になることがあります。発達障害を持つ子供は、気持ちの安定を大切にします。特に保護者も含めて、担任が子供と一緒に触れ合っていくことについて、私が教師だった時は、特別支援学級は同じ先生が継続して担任をしていました。新しい先生があまり入らなかった背景は、一人一人の子供を何年も前から理解し、継続して成長も含めて支援し、加えて保護者とのつながりもできているという安心の下に取り組んでいたこともありましたので、その辺、今の取組はとても良いアイデアだと思います。そこが、これからも要にな

青地委員

るのだと感じました。

東近江市発達支援センターができたのが、私が八日市北小学校に戻ってくる2年前だったのですが、正に、先生たちが、発達支援をどう理解したらいいのか、どう取り組んだらいいのかと考え、悩んでいた時代だったのです。先生方は非常に勉強されましたし、研修会に行きたいという方は非常に多かったです。やはり、教師にとって、分からないことや見えない部分というのは非常に不安ですし、少しでも勉強したいという気持ちが強いのが、この領域であることは間違いないので、そういう意味では担任をするという考え方も大事だと思いました。

管理監（学校教育担当）

東近江市として、校長が言われた考え方を推奨しています。以前は、情報が限られていました。先ほど発達支援センターで見ていただいた「サポートブック」で親との関係も教育しながら、また、全校で一人の先生が対応するとその子の情報が限られてしまい、接する態度が変わってしまうことがあるため、先ほど校長が言われたやり方を市としては推奨しています。

学校教育課特別支援教育コーディネーター

文部科学省も推奨されています。それができるのも、今のように一つの学校に支援学級が増えてきた状況があり、ベテランの先生がいる中で若い先生も交じりながら、先輩から学ぶという体制があるからこそできることです。

八日市北小学校長

特別支援教育に限ったことではないのですが、例えば、本校は、不登校対応でかなり成果が上がっています。それは、担任任せにせず、学校として不登校に対応するという一方で、どの先生だったらこの子は喋るのか、どの先生だったらこの保護者は喋ってくれるのかということで、担任だけの仕事にはしないで、学校の総力戦としてその家庭と向き合うようにしています。それで、かなり成果を上げています。来られるようになった子が、小さな相談室できっちり学習していく。担任とは違う教員が上手に導いています。

教育部長

ありがとうございます。今の件に関してはよろしいでしょうか。

他によろしいでしょうか。せっかくの機会ですので、御質問等がありましたらお願いします。

篠原委員

発達支援センターで説明された部分で、「読み書き課題早期対応表」があるという話をされていました。この対応が事業の一環として入っていたのですが、これは、先生たちが全体の中で苦手な子を把握するために、一斉テストのような形で実施して、その中で、苦手と判断した子を挙げたとしたら、その子に対して誰がどのように支援をされるのですか。

発達支援センター主査

年に2回、1年生、2年生と行っているこの調査で、読み書きに非常に課題のある子供たちがリストアップされる形となります。その結果を受けて通級指導教室であったり、又は次年度の就学相談であったり、何らかの読み書きに関わる個別の支援が必要になるという結果になっていますので、それぞれに見合ったアプローチの仕方をまずは校内の委員会の中で選定をして、徐々に進めていくという流れになっています。

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 篠原委員       | 支援は担任の先生がされるのですか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 発達支援センター主査 | 支援については、担任もしていますが、校内の中では管理職の先生も含め特別支援の校内委員会というのが各校にありますので、その中で協議されます。担任が一人で行うということではありません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 篠原委員       | 対象者がかなりおられるという印象を持っていたので、気になりました。ありがとうございました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 市長         | 先日の首長会議でもPTAのP（保護者）の果たす役割をクローズアップできないかと言いました。校長から見て、保護者を教育の現場にもっと引き出すことはできないものですか。そのことがこの国の大きな課題だと思うのです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 八日市北小学校長   | 地域の力を活用するのは難しいと思います。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 市長         | 今は、地域ではなく、突き詰めると家庭、保護者だと思うのです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 八日市北小学校長   | <p>私見かもしれませんが、子供たちにとって学校も家も基本的には縦の関係だと思います。教える人、教わる子供、そして、学校に来ると同級生や同学年と横のつながりもできます。しかし、縦と横しかなく、それを編みあわせるような斜めの糸は何だろうと考えたときに、地域がやるべきこともたくさんあると思うのです。</p> <p>スクールガードや民生委員など、子供との顔合わせを大切にし、そういう関係を大切にすればこそ挨拶もできます。また、子供を見て、保護者がほめるのと学校がほめるのと地域がほめるのとでは感覚が違うのです。子供にとっては地域が逃げ場にもなりますし、必要不可欠な空間になっていると思います。</p> <p>だから、今、地域の人に学校へ入ってきてもらって、いろいろなお手伝いをしてもらおう。とにかく地域の人に学校へもっと来てもらい、そこから始めようということで、八日市北小学校は頑張っています。</p> |
| 市長         | <p>期待していますのでよろしくお願いします。</p> <p>二点目、東近江市発達支援センター、あるいは東近江市の発達支援教育は他市と比較してどのようなレベルですか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 八日市北小学校長   | 東近江市は、たくさんのスタッフが揃っており、より専門的でよりきめ細かいと思います。細かすぎて、事務の部分が煩雑になるしんどさもありますが、基本的には専門の方がおられて、支援センターなどの機構があり、連携が上手くいっているので私は非常に進んでいると思います。さらに、学校は支援員という人的支援をしていただけると非常に助かります。                                                                                                                                                                                                                                             |
| 市長         | 三点目、いじめの問題についてです。大津市の中学校でのいじめ事件以降、組織における危機管理として、校長、教頭、学年主任、先輩、同僚と学校の組織においてもピラミッドを                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 市長         | <p>作り、いじめの兆候事案があれば、組織で対応する必要があると考えます。しかも、それは個人の問題ではなくて、そういう問題を認知すれば、必ず上司、学年主任や生徒指導の先生などに報告を義務付け、それが副校長、教頭に上がって、組織で対応していたら、あのようないじめや自殺は起こっていないと確信します。</p> <p>今、学校は組織になっていますか。何か兆候事案やいじめ事案があれば、組織的な対応ができていますか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 八日市北小学校長   | <p>市長の言われるとおりだと思いますし、本校はそのように対応していると思っています。本校の会議は、「最近、子供のことで気になることはないか。」という情報共有から始まります。担任、支援員などが少しでも気になることがあれば、紙に書いて職員内で情報が共有されるシステムになっています。問題になる前に早く対応するという感覚でいます。</p> <p>もう一点、本当に大切なことは、親和的で支持的な集団を積極的につくっていく、守りではなく攻めていくということです。私はプロジェクト・アドベンチャーというチームビルディングのトレーナーをしていました。八日市北小学校のテーマは「みんなが楽しい」というものですが、「みんなとは誰か」、「楽しいとは何か」ということを児童、職員全員で追及していこうという方針です。未然防止や早期対応ではなく、そうならない集団をつくっていくことに力を入れていきたいと思います。</p>                                                            |
| 市長         | <p>その方向で間違いないと思います。</p> <p>最後に、学校に在籍する外国籍の児童はどこの国が多いですか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 八日市北小学校長   | <p>ポルトガル語の児童が一番多いです。次にベトナム語の児童です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 教育部長       | <p>他によろしいですか。</p> <p>御質問等がないようでしたら、本日のまとめに入らせていただきます。</p> <p>本日の感想など、お一人ずついただければと思います。</p> <p>それでは、山本委員お願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 山本教育長職務代理者 | <p>私が今持っていた知識や経験との落差に驚くばかりです。その中で、私はいつも過去を思います。比べるのは私が子供の頃のことです。発達障害にしても特別支援にしても、私が子供の頃にもいたのだろうと思います。それは、どうなったのだろう。大人になって、今、どうしているのだろう、そんなことを思います。</p> <p>手厚くなったから、そういった子供たちが見つけられるというのは分かりますが、ある意味、かつての仕組みの中で自然にそういうことは治癒した部分があるのではないかと思います。</p> <p>例として、子供が生まれたときに、病院に行ったら、医者から「子供さんの心臓の壁が塞がっていません。」と言われました。聞くと、そういう状態で生まれることはよくあることで、自然に治ると、少し早めに生まれただけということでした。そういうものなのだと思います、その話を思い出して、かつての仕組みの中で自然に治癒できたものがあつたのではないかと、それを、今、見落としているのではないのかというのが一点。それは、今回のことだけでは</p> |



山本教育長職務代理者

なく、いろいろなことに対して思います。

もう一点は、最近、新聞で読んだのですが、問題はこれまでの話とは全く違って「獣害」についてです。北海道で酪農をされている家の子供さんが書いたもので、熊の被害で、熊を駆除するべきだという意見に対して、「それは可哀そうだという意見がある。」ということでした。「『駆除するのは可哀そうだ。』という意見は、確かに、善意に基づき、いろんな愛情を持っての発言だから、それは言っても良いと思う。しかし、それを聞いた現場は、それが善意に基づいてのことでも、現場を知らないから負担にしかならない。最善の解決策は、現場で見つけ出すしかない。」と書いてありました。そういう意味では、解決策は恐らく、学校の先生方が一番よく知っているのではないかと思います。

外部から私たちが言うより、もっと、学校の先生は言った方がいいのではないかと思います。優秀な方が先生になっているので、私たちはこうやっています、頑張っていますと言われますが、もう大変だ、もうお手上げだというようなことを言ってもいいのではないかと常々思っています。学校のことを十分に知らない中での発言なので許していただきたいのですが、もっと正直に言えばいいのではないのでしょうか。今日、校長先生が「支援員が欲しい。」と言われた言葉は、とても心に響きました。このように言っている学校現場の声が一般の住民にも伝わる仕組みがないものなのかとも思います。

本当に子供たちのことは、国家のことだと思います。大事にしないといけないと思います。

教育部長

ありがとうございました。現場の意見をしっかり聞くように努力していきたいと思います。

それでは、篠原委員、よろしくお願いします。

篠原委員

私が「こうなればいいな。」と思う学校の姿が、校長先生の話で分かりました。そこまで取り組んでいるのだと感心させてもらい、本当に良かったと思います。

どこの学校も、そのようにされているとは思いますが、そういう方向に向かっているのだなと感じてとても嬉しかったです。

先ほど、地域はないという話が出ました。私もある意味、そのように思っているところはあるのですが、実際、私は、子どもが1、2歳の時に東近江市に引っ越してきて、この地域には親戚も誰もいなかったのです。その中で、子供を育てるときに、孤独感であったり、いろいろ感じたりしたのですが、地域の方がとても熱心にイベントごとなどのいろいろな取組をされていて、それに参加させてもらいました。地域の方の気持ちというのがとても嬉しかったです。だからこそ、今、私は恩返しをしたいという気持ちになって、いろんな地域の学校運営協議会であったり、青少年育成市民会議にも参加させてもらったりしています。そういう気持ちが循環していったら、本当につながっていくのではないかなと思うので、あきらめないで欲しいという思いがあります。

教育部長

ありがとうございます。

それでは、青地委員、よろしくお願いします。

青地委員

私はやはり教育というのは様々に種を蒔くことだと思っています。そこから、どう芽が出てくるか分かりません。いろんな種を蒔いていただければ嬉しいと思います。

教育部長

ありがとうございました。  
それでは、沖田委員、よろしくお願いします。

沖田委員

私どもの大学では、特別支援教諭を養成しています。これまでは、保健体育の先生の免許だったのです。一般の小学校教諭の免許を持った人は、これまで特別支援の免許を取れなかったのですが、来年からそれを取れるようにしたのです。今、言われたように先生方が現場に出て体験し、優秀な特別支援教諭を育てるという本日の話を聞き、私の判断は間違っていないかと思いました。ありがとうございます。

教育部長

ありがとうございます。  
それでは、久田副市長お願いします。

久田副市長

今日は、いろいろ見させていただいて、これだけのことをやっていただいて、なぜ、もっと市民へ話が届かないのかと思いました。地域として、これだけの体制がとれているところがないのであれば、そういうことをもっと市民の方に知っていただく必要があるのではないかと思います。

私が若い頃は、先生は授業を教える、勉強を教える、あとは家庭教育という感じだったと思います。今の話を聞いていると、以前と違い、勉強だけではなく、学校という役割が広がっている中で先生方にはいろんな意味での負担がかかっているのではないかと、それを先生方が何とかされているのだと思います。これ以上、先生に負担をかけるのは酷だと今日の話を聞いて思いました。これは人的な問題や先生以外でできるところにどのように人的支援をしていくのか、それで、学校が良くなれば、不登校の問題やいじめの問題も良くなっていくのではないかと感じました。

教育部長

ありがとうございます。  
それでは、市長から一言お願いします。

市長

ありがとうございました。私も母校を訪問したのは60年ぶりです。

私が6年生の時は1クラス45人ぐらいで3クラスありました。中学校へ進学した時に一学年が350人ぐらいでしたので、それを思えば、本当に少子化は進んでいるのだと思います。少子化が進んでいる中で思ったのが、昔の先生は楽だっただろうと思いました。児童45人を前にして黒板に書き、それで終わったのですから。

しかし、今の先生は、個別に指導していかないといけないのですから大変です。これからもっと大変になると思います。教育に対しては東近江市も頑張ります。今日は、行政の課題を突き付けられたような認識を持ちました。子供たちは、地域やこの国を背負っていく金の卵ですので、しっかりと磨きたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

教育部長

ありがとうございました。  
それでは、教育長から一言お願いします。

教育長

今日はありがとうございました。発達支援センターと八日市北小学校を御覧いただき、私も現場を見せていただいているつもりだったのですが、今日は、本当に両施設共、丁寧に説明をしていただき、本当に勉強になったと思っています。

冒頭申し上げたように、学校は本当に自分の目の前の子供たちに対して、とても丁寧に真剣に取り組んでいると私は思っています。しかし、その次、中学校を卒業した後を知らないのが一番の問題ではないかと思います。外国籍の子供たちについてもそうです。例えば、進路について、その子が帰国するとしても、やはり、小学校、中学校時代に身に付けるべきことがあるはずなのです。けれど、以前から日本はそういう部分について、外国籍の子供に対し、それをおろそかにしているとずっと感じていました。帰国するがしまいが、その子たちに対してどういう教育、力を付けておくかということが大事だと思っています。そして、恐らく、今後は日本に住み、就業する子供たちも増えていくのだと思います。その段階で、しっかりと、納税の義務を果たしてくれるような子供たちを育てていかないといけないと考えながら、今年度は不登校と外国籍、そして特別支援という3つの大きな課題だと思っていますので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

今日はありがとうございました。

教育部長

ありがとうございました。皆様からいただきました御意見等によって、共通認識や新たな視点として得ることができたのではないかと考えております。本日いただいた御意見等を踏まえながら、今後の取組につなげていきたいと思っています。

それでは、以上をもちまして、令和5年度第2回総合教育会議を閉会いたします。

熱心に御議論いただき、ありがとうございました。

会議終了

午後0時12分